

# さらに闘いを強化し貨物合理化粉碎へ！

## 日刊 動労千葉

80.9.9

No.529

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二三五八・九(公衆)三三三二七二〇七

### 55.10ダイ 改交渉

## 組合要求の一定の前進を確認

五五・一〇ダイ改交渉については、動労千葉第十一号の発出以来、今日まで、基本要求を中心とした連続交渉を展開してきている。  
動労千葉は、今次五五・一〇ダイ「改」阻止の闘いについて、第九回支部代表者会議の確認決定にもとづき、九月十日快速十五両化開始時点をひとつの焦点として、九月五日の局前集会、各支部での職場集会の成功に踏まえ、その力を背景とした局交渉の強化をはかってきた。

### 「貨物削減について修正検討の用意」 (当局)へ追い込む

われわれの闘いに追いつめられた当局は、九月六日、交渉の席上、電車関係の修正提案を行ってきた。

修正提案の内容は、当初五五・一〇電車関係委員について検修関係で二十一名減の提案内容に対し、ほぼ組合要求に基づく大巾な修正となった。

組合側は、これに対し、電車関係における一定の前進は認められるとしても、貨物関係についてはなんら前進した回答がないとして当局を鋭く追及した。

最終的に、当局側は「貨物関係については、列車削減計画を含めて修正の用意があり、現在検討中である」との回答が示された。

組合側は、今日まで一貫して「提案通り」と主張しつつ追いつてきた当局が、この間のわれわれの闘いに追いつめられ、遂に「修正の用意がある」との回答を示したことを一定の前進と評価しつつも、具体的な内容が現段階で示されていない以上、問題があることを指摘し、貨物削減合理化の白紙撤回をあくまで強く主張し交渉を打ち切った。

### 二十日を目途に闘争体制を さらに強化しよう！

動労千葉は、九月八日の交渉の前段で、各支部長出席のもと、九月六日に示された当局の修正提案を含めて、九月十日以降の一部十五両化運転・幕張の事前作業の取扱いについて討議を行った。現情勢は、①電車関係については組合要求に基づく回答が示されている。②貨物関係については、修正を検討するにまで追い込んだ。という組合要求の一定の前進を確認する。

しかし、国鉄当局の五五・一〇攻撃の一方の主

軸に貨物合理化をもつて五六・三を先取りした燃料輸送要員生み出しを狙った攻撃がある以上、闘いをより強化しなければならぬ、として、九月二十日以前には、五五・一〇にかかわる乗務員関係の訓練は原則として拒否することを決定した。以上の立場を堅持しつつ全国情勢とからめて、九月二十日を第二の山場として、さらに当局を追いこむ闘争体制を強化しよう！

### 56・3ジェット延長要員生み出しの ための貨物合理化を粉碎せよ！

動労千葉は、五五・一〇ダイ改に対し、客貨分離策動粉碎、国鉄三五万人体制合理化―五六・三ジェット燃料貨車輸送延長反対と結合し、申十一号要求獲得に向けて闘うという基本的立場を鮮明にし、闘いに突入している。

五六・三を先取りした機関車乗務員の検出、さらには駅、ヤードの勤務体制に見合った、列車削減に対し、われわれは、単に機関車職場の闘いとどめることなく、「客貨分離」策動粉碎をかかげ、五六・三を見すえた闘いとして、全支部の力ではねかえす闘いの高揚をつくり出している。

一方、全国的には動労・国労中央の五五・一〇の屈服姿勢をみすかした国鉄当局は、検修関係要員三万人のうち一万人の要員削減を狙った大巾民託化の攻撃を策動している。

われわれの闘いは、こうした国鉄三五万人体制合理化と真向から対決し、ひとつひとつ粉碎していかねければならない。

この勝利の展望を切り拓くのか否かは、五六・三を先取りした三十九名の機関車乗務員削減攻撃を許すのか否かにかかっている。

全組合員はさらに闘争体制を強化し、団結をかため、職場からの闘いを強化しよう！

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！